

各 位

2024年9月11日
株式会社リットーミュージック『サウンド&レコーディング・マガジン 2024年11月号』では
リボン・マイクを深掘りする大特集を掲載

インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『サウンド&レコーディング・マガジン 2024年11月号』を、2024年9月25日に発売します。

■書誌情報

書名：サウンド&レコーディング・マガジン 2024年11月号

著者：サウンド&レコーディング・マガジン編集部

定価：1,485円（本体1,350円＋税10%）

発売：2024年9月25日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/magazine/detail/3124121006/>

CONTENTS

◆表紙／巻頭特集

リボン・マイクは浪漫。

今知りたい、優しさに満ちたあの音の秘密

“温かみのある良い音が録れる”というイメージが先行し、アマチュア・ミュージシャンにはなかなか触れる機会のない逸品、リボン・マイク。古くから存在するものの、2020年代に入ってから新機種が続々と発売されており、あらためて機材としての魅力を探るべく本企画を敢行。エンジニアによる構造や使い方、歴史の解説、筐体デザインの美しさを伝える写真集、最新機種レビューなどで、リボン・マイクを32ページにわたって深掘りします。

① 葛西敏彦、リボン・マイクを語る

大友良英、青葉市子、スカート、岡田拓郎、蓮沼執太らを手掛けるレコーディング／PAエンジニアで、サンレコでもおなじみの葛西敏彦。特集の冒頭では、人気エンジニアの彼にリボン・マイクの魅力をざっくばらんに語っていただきます。

② リボン・マイクの仕組みって？ by 須田淳也（音響ハウス）

国内屈指のレコーディング・スタジオ、音響ハウスでテック・エンジニアを務める須田淳也。約30年のキャリアを有し、ビンテージ機材にも強い彼にリボン・マイクの仕組みを解説してもらいます。リボン・マイクの魅力のトーンの秘密が解けるかもしれません！

③ リボン・マイクはこう立てる、こう使う by 中村公輔

仕組みの解説に続いては、リボン・マイクの立て方、コンデンサー・マイクとのブレンドの仕方、保管時の注意点などをレコーディング・エンジニアの中村公輔が解説。あがさ（すずめのティアーズ）の歌&アコギをソースとして、現行品のリボン・マイクでマイキングを実演。その様子を記事化しつつ、誌面連動音源も用意します。

④ WARM AUDIO WA-44 開発者インタビュー

今年の初夏に発売されたRCA 44-BXインスパイアのリボン・マイク、WARM AUDIO WA-44。編集部は今回、WA-44の開発者とコンタクトを取ることができたので、製品のコンセプトや設計についてインタビュー。開発者／技術者の視点からも、リボン・マイクの魅力をお伝えします。

⑤ 名盤の影に名機あり リボン・マイク物語 by 高橋健太郎

サンレコで「音楽と録音の歴史ものがたり」を連載中の音楽評論家／プロデューサー／エンジニアの高橋健太郎。リボン・マイクの歴史について、名機と呼ばれるモデルの使用アーティストや作品とともに振り返ります。

⑥ リボン・マイク写真館 （協力：音響ハウス）

音響ハウス常設のリボン・マイクを美しく撮り下ろし、写真集のページにしました。リボン・マイクには、ユニークな筐体デザインのものも多いので、この機会にじっくりと鑑賞していただくと幸いです。

⑦ 今、手に入れたい！ 最新リボン・マイク7選 by 原真人

これまでに細野晴臣、古川麦、原 摩利彦らの作品を手掛けてきた原真人も、リボン・マイクを愛するレコーディング・エンジニア。2020年代のリボン・マイク7機種を彼に渡し、ボーカルやギターに試してもらった上でレビューしていただきます。モダンなりボン・マイクの魅力とは、どのようなものなのでしょうか？

◆コンサート見聞録

宇多田ヒカル @さいたまスーパーアリーナ

宇多田ヒカルがベスト・アルバムを引っ提げて敢行した『HIKARU UTADA SCIENCE FICTION TOUR 2024』。7月24日のさいたまスーパーアリーナ公演について、PAシステム&ライブ・サウンドの面からレポートします。

インタビューに答えてくれたのはFOHのエンジニア、アンドリュー・ウィリアムソン。これまでにジェシー・J、ビービー・レクサ、ジョナス・ブラザーズなどのPAも手掛けてきた彼は、宇多田サウンドにいかにかアプローチしたのでしょうか？ 機材&楽器写真の数々とともに振り返ります。

◆Special Interview

フローティング・ポイント インタビュー+ライブ・レポ

9月13日リリースのニュー・アルバム『Cascade』でも、独自のテクノ〜エレクトロニック・サウンドを披露しているフローティング・ポイント。本人への対面インタビューで明かされた制作テクニックや注目のシンセとは？ そして『FUJI ROCK FESTIVAL'24』のライブ・セットの仕組みとは？……本稿では、アルバムに関するコメント+フジロックのライブ・レポートで、最新のフローティング・ポイントに迫ります。

◆Special Report

globe

globeが1999年に残した『globe tour 1999 Relation』のライブ映像。その音声はDolby Atmosミックスとなり、8月28日にライブBlu-ray『globe tour 1999 Relation Remaster Edition』として発売されます。本稿では、Dolby Atmosミックスを手掛けた岩佐俊秀、彼の音作りをサポートした

qoopの村上智広に伺った話から、今回のリプロダクションの手順やポイントをレポートします。
スタジオワークに使われたqoopのMA2も紹介。

◆インタビュー

パソコン音楽クラブ

◆音響設備ファイル

Xylomania Studio - Studio 2、梅田 BANGBOO

◆レポート

AUDEZE MM-100（檜谷瞬六 & 佐々木優）、AUDIO-TECHNICA ATS99（須田景凧ほか）、
beyerdynamic（マイク工場レポート）、HARRISON AUDIO（中村公輔）、SHURE Nexadyne（葛
西敏彦 & 石川紅奈）、ソニー 360 Reality Audio（高橋幸宏）、STAX SRS-X1000（星野誠）、TAOC
（yasu2000）、UNIVERSAL AUDIO Apollo X16D（小松久明）

◆連載

横川理彦のグルーヴ・アカデミー、ターンテーブルリストへの道（DJ IZOH）、高橋健太郎

【株式会社リットーミュージック】<https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプ
レイヤー & クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信
等、音楽関連のメディア & コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御
茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やT
シャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWeb サービスも人気です。

【インプレスグループ】<https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コ
ード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デ
ザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに
専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテ
ンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: pr@rittor-music.co.jp